

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

5月中旬、登下校する子供達と出会う。新型コロナウイルスの感染前は当たり前前の日常風景だったが、久しぶりに子供達の楽しそう

な姿を見ると、地域に子供たちの居る必要性を強く感じる。

1966年に発表された童謡「一年生になったら」は、作詞は「まど・みちお」さん、作曲は「山本直純」さん。「いちねんせいになったら」ともだちひやくにん できるかな ひやくにん できるかい せかいじゅうをふるわせて わっはは わっはは わっはは「子供たちが感染症の恐怖から歩み出す気持ち」が歌詞から伝わって来そうだ。友達とは、基本的に、一緒に遊びに行くなど、仕事や学校から切

り離れた信頼関係で自然に出来上がって行くものだ。子供達にとって大切な心の成長期に、一緒に遊ぶ時を過ごせない子供達を地域がどの様にサポートして行くのか、求められているのだろう。

観光戦略に必要な現状分析力が試されている

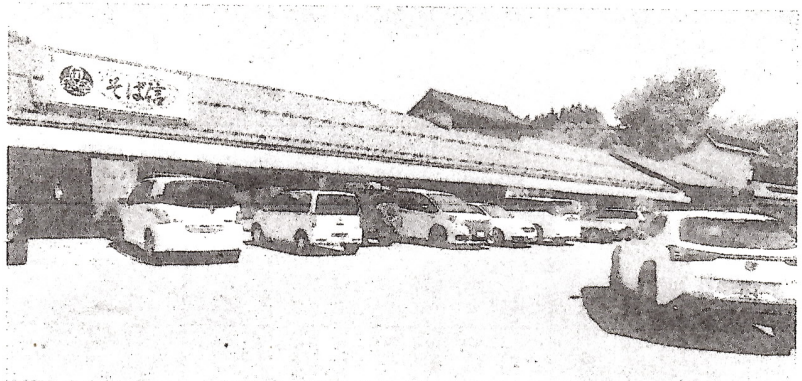
5月中旬に新型コロナウイルス特別措置法に基づく緊急事態宣言が長野など39県で解除、25日には全面解除された。観光庁は、4月に日本を訪れた外国人旅行者は2900人

で、前年同月に比べ99・9%減少した、との推計を発表した。NHK番組に出演した全国に観光ホテルや旅館を展開する星野リゾートの代表、星野佳路さんは、コロナ禍の緊急事態を「何十年に

一度、いや百年に一度かもしれない」とし、いま何をすべきかの観光業復活策を練っている。4月下旬には、幹部を集めた戦略会議で「外出自粛が終わっても、客が一気に戻ることはないと予測し

て、まず戻るのは近隣への外出「30分から1時間の近場から始まる。次に首都圏や関西圏からの客、外国人観光客の回復は最後になると」と分析。年間宿泊客の30%は外国人の星野リゾートの戦略の見直しと、より強い施設と組織作りを進めるとした。そして打ち出したのが、近場の旅行客を取り込むためのネットワークづくり、

観光客業界は、宿泊施設を中心に、農家や漁師、バスやタクシーの運輸関係者といった多くの地域住民がかかわる。そこから観光資源を見つけようとした内



容で明確な営業戦略に納得する。

不透明な観光産業の今後の展開に、大北地域は当面戦

略的にも外国人旅行者に頼らない取り組みを期待したい。(NPO法人信州地域社会フォーラム会員) 信州新町道の駅 地域資源活用の営業戦略は苦境でも大勢の顧客が訪れている